

## **第3章**

### **今後の高齢者の状況**

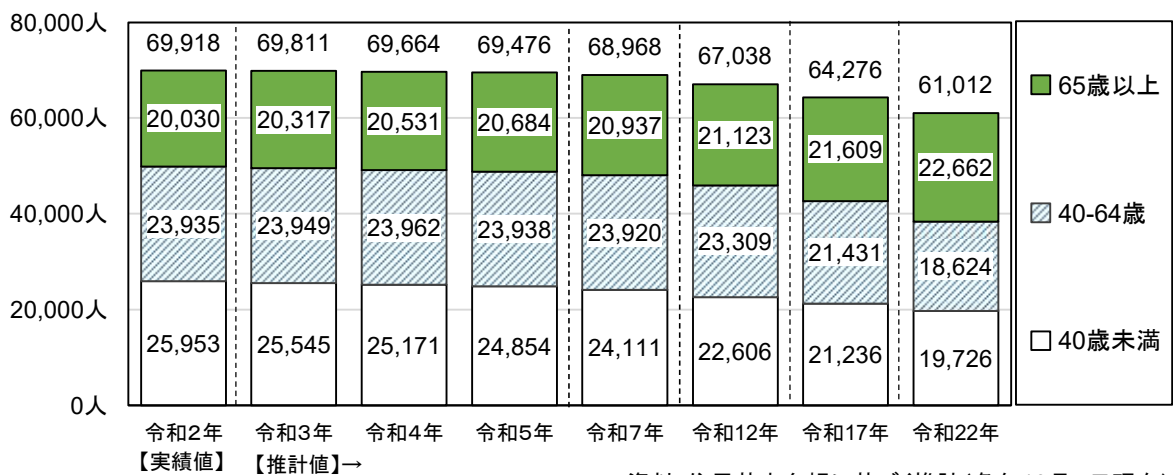
## 1 将来推計

### (1) 推計人口

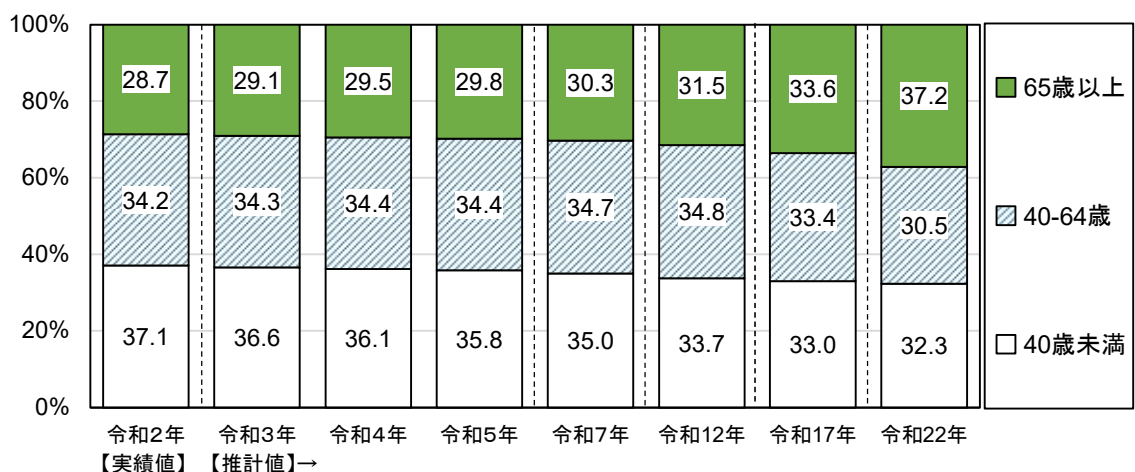
本市の住民基本台帳をもとに、コーホート変化率法(同じ年に生まれた人々の動向から変化率を求め、その結果に基づき将来人口を推計する方法)により算出した推計人口をみると、本市の総人口は年々減少し、計画最終年の令和5年には69,476人となることが見込まれます。

人口構成比では高齢化率は増加を続け、令和5年には29.8%となり、令和6年以降には30%を超え、令和22年(2040年)には37.2%に達する見込みです。

■推計人口



■推計人口(構成比)

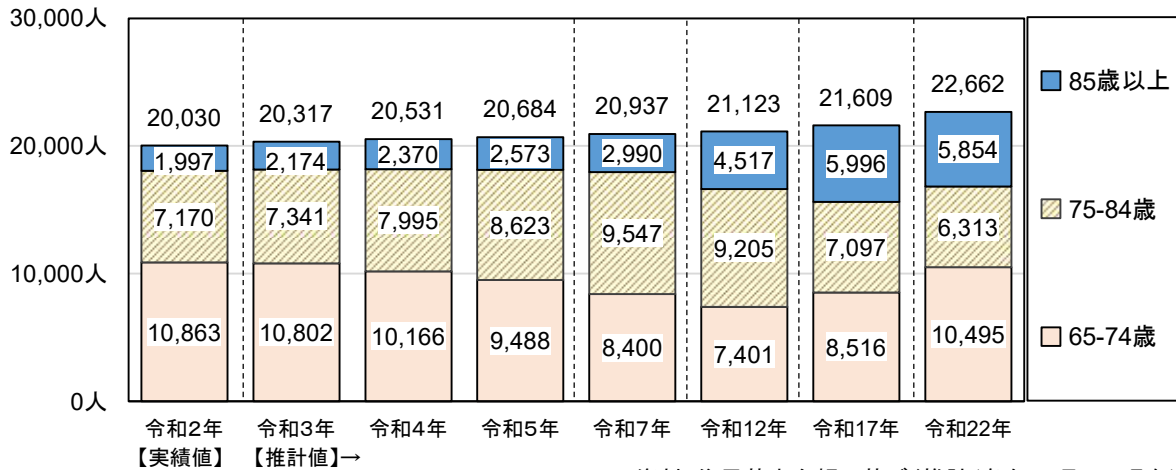


## (2) 高齢者人口の推計

本市の高齢者人口の推計をみると、65～74歳の高齢者は減少を続け、令和5年以降に10,000人を下回ることが見込まれます。

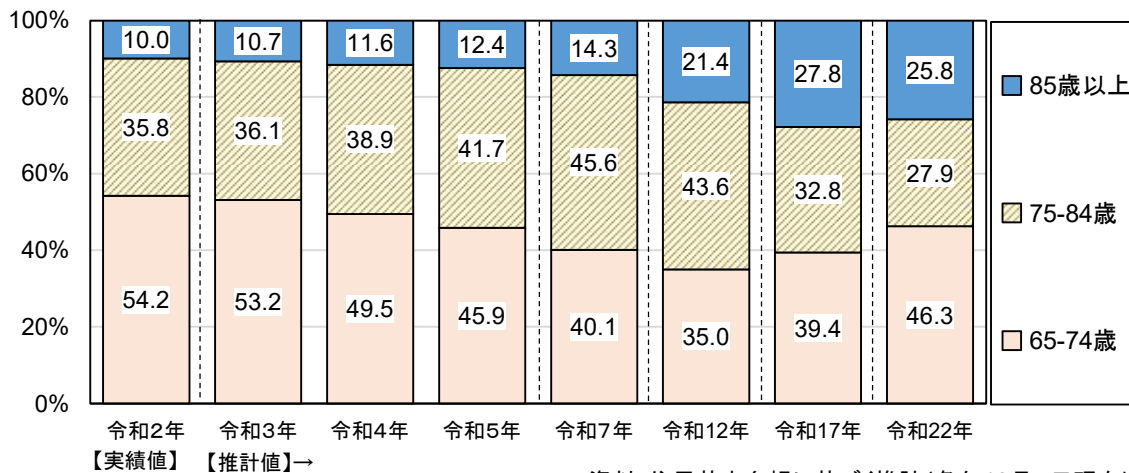
また、75歳以上の高齢者は令和4年以降、65～74歳の高齢者数を上回って推移し、令和12年にピークを迎え、13,722人となり、高齢者に占める割合は6割を超えることが見込まれます。

■ 高齢者人口の推計



資料：住民基本台帳に基づく推計（各年10月1日現在）

■ 高齢者人口の推計（構成比）



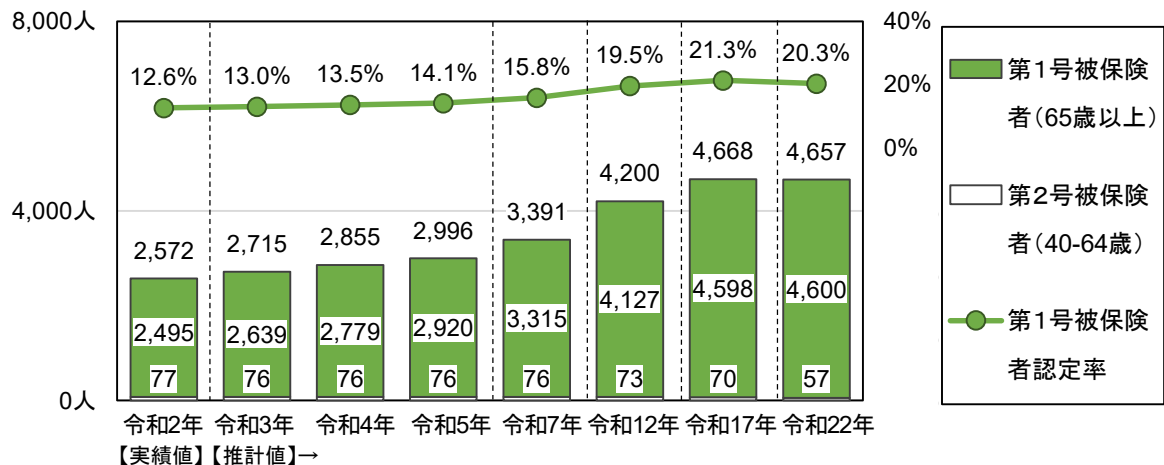
資料：住民基本台帳に基づく推計（各年10月1日現在）

## 2 要支援・要介護認定者の推計

本市の要支援・要介護認定者数の推計をみると、年々増加を続け、計画最終年の令和5年には2,996人となり、認定率は14.1%となることが見込まれます。

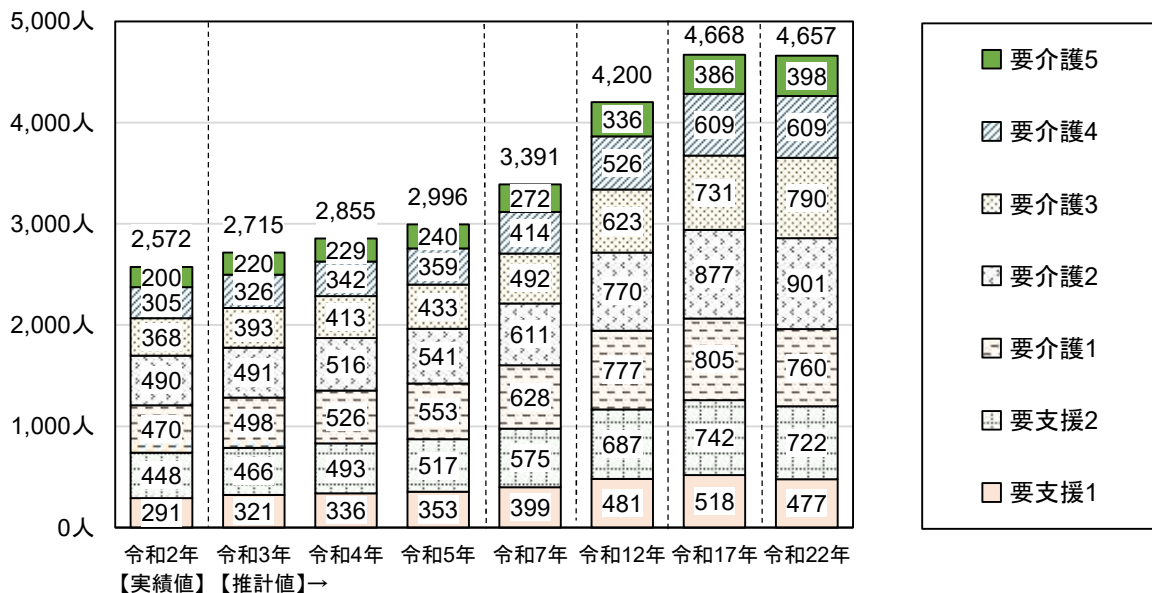
令和17年以降、認定者数が減少に転じますが、団塊ジュニア世代が高齢者となり、要支援・要介護認定を持たない高齢者が増加することなどが背景として想定されます。

### ■要支援・要介護認定者数の推計



資料：地域包括ケア「見える化」システムによる推計（各年9月末現在）

### ■要支援・要介護認定者数の推計（要介護度別）

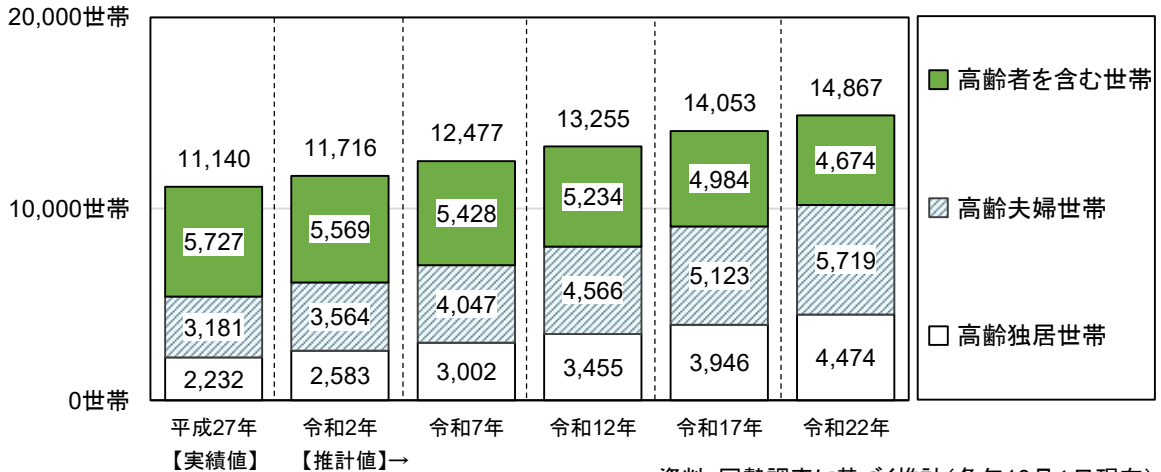


資料：地域包括ケア「見える化」システムによる推計（各年9月末現在）

### 3 高齢者世帯の推計

本市の高齢者世帯の推計をみると、年々増加を続け、令和7年に高齢独居世帯は3,002世帯、高齢夫婦世帯4,047世帯となり、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年には高齢独居世帯は4,474世帯、高齢夫婦世帯5,719世帯になると見込まれます。

■ 高齢者世帯数の推計



### 4 認知症高齢者の推計

本市の認知症高齢者の推計（要支援・要介護認定者に対する認知症高齢者自立度Ⅱ以上の割合を人口推計に乗じて算定）をみると、年々増加を続け、計画最終年の令和5年に2,341人となり、令和12年にピークを迎え、2,539人となります。また、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年には2,409人となり、高齢者の約10%を占めると見込まれます。

■ 認知症高齢者の推計

